

# 諦めていた「ハワイ旅行」をもう一度

第6回

重度要介護でも海外旅行は可能

2015年6月、神戸市の高齢者施設にご入居されている女性から連絡がありました。その方は「もう一度、主人とハワイに行きたい！」と強く願っておられました。

ご夫妻はともに70歳代で、奥様はお元氣ですが、ご主人は脳梗塞による重度の後遺症で半身不随となり、ベッドでも20度ぐらいいしか上体を起こすことができず、食事は経管栄養による摂取、尿道カテーテルでの排尿、言葉も不自由になられています。ご主人の病気を機に高齢者施設に入居され、そこでの催し物がきっかけでご主人の大好きだったハワイへの想いが再燃。

希望をかなえてあげたいと望まれつつも抱える奥様の心配は、主治医の後押しで一掃され、旅行会社を探し始められたとき、弊社をお知りになりました。

こうしたご依頼に対して重要なことは「重度だから厳しい」という発想をしないことです。どうすればお客様をお連れすることができなのか、このことだけを考えます。

第一に考えたのは移動の飛行機のことです。ハワイまでは7時間から8時間も機内に閉じ込められます。ベッドでも20度ぐらいいしか上体を起こせない身体では、離発着時でも座席はリクライニングしたままの状態にな

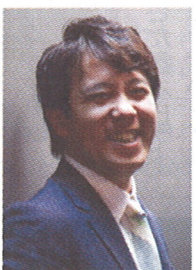
り、また気圧の変化による身体への負担・影響なども考えられるため、提携ドクターや関係各所へ確認し調整をしました。現地のホテルへはレンタルしたりクライニングベッドを前日から搬入・設置し、また車椅子ごと乗車できるタクシーの手配も行いました。

そして、2016年10月、念願のハワイ旅行が実現。ご主人が行きたいと熱望されたハナウマベイというビーチ。そこに到着したとき、ご主人はそれまで見たこともない感無量の表情に喜びをにじませていらっしゃいました。そしてご主人を支え続けてこられた奥様の笑顔は、鮮明に今も脳裏に焼き付いています。4泊6日と決して長くはありませんでしたが、願ってやまない夢を諦めずに実現された旅行でした。



▶真つ青な空と海に大感激

いくつになっても  
Let's Travel



ハンディネットワーク  
インターナショナル（HNI）  
代表取締役 春山哲朗

進行性筋ジストロフィーにより首から下の運動機能を全廃してなおビジネスマンとして第一線で活躍した春山 満を父に持つ。ハワイ留学後、ネバダ州立大学ラスベガス校ホテルマネジメント学科へ編入。2007年HNI入社。取締役を経て、2014年父の急逝にともない、代表取締役就任。翌年、新事業「グッドタイム トラベル」開始。要介護になつてもあきらめず家族旅行を続けていただきたい思いを実現。